

示現舎・宮部龍彦への再質問

1、宮部龍彦は「部落民だ」というウソを撤回し謝罪すること

示現舎・宮部龍彦は、みずからの回答書において「宮部龍彦は間違いなく部落民」と断言しています。しかし、宮部龍彦は部落民ではありません。宮部龍彦が自分は部落民だとして並べている理由は、いずれもデタラメです。

宮部龍彦に問う。なぜ、こんな見え透いたウソをつくのか？「宮部龍彦は間違いなく部落民」というのは、ウソであることを深く認め、謝罪・撤回し、ネットや裁判においても公表すべきだと思うが、どうか？

宮部龍彦の出身地は、鳥取市下味野 415 番地の 1 です。この下味野地区には、確かに被差別部落は存在しますが、それは下味野地区全体ではなく、下味野の中の限られた一部の区域でしかありません。宮部龍彦の出身地、下味野 415 番地の 1 は、そうした一部の区域ではなく、それ以外の一般区域にあります。

全国連の同盟員には、鳥取市の被差別部落の出身者もいます。また、親交のある人々もいます。宮部龍彦には、気の毒なことに、宮部龍彦の出身地のすぐ近くにも、そういう人はいます。宮部龍彦が部落民ではないことは、そこの住民では誰でも知っていることです。その人たちは、みんな「宮部龍彦は、なぜこんなウソをつくのか」と首を傾げています。「よほど、金もうけに目がくらんだに違いない」と推察しています。

宮部龍彦は、こんなウソつきで有名になって、親兄弟や近所の人々には、何と云い訳するつもりなのか？

宮部龍彦が並べているその他の理由も、みんなデタラメです。その点も、深く認めて謝罪・撤回すべきだと思うがどうか？

例えば、宮部龍彦は、回答書において、「父親が屠殺業」と言い、あたかも部落産業に従事しているかのように言います。だが、これもウソです。父親は、猪、鹿などのジビエに係っているというだけのことです。これをもって「屠殺業」と言うには、針小棒大にも程があるというものでしょう。

また、同じく、「父親が所有する田んぼが同和予算で改良されたから」と言います。しかし、これも宮部龍彦が嬉々として取り上げるまでもなく、常識の範囲で正解はです。それは、単に、鳥取市が同和事業の関連対象地区としたものであり、その土地の所有者が部落民であることにはあたりません。全国的にも、部落に近接する地区では、部落の中に存在する場所だけでは、事業として成立しないことから、同和事業対象地区として改良事業にふされることはよくあることです。

一事が万事です。宮部龍彦が理由にあげていることは、ことごとくこじつけに過ぎず、すぐに化けの皮が剥げる類のデタラメです。

さらに宮部龍彦は、裁判所という「権力により部落民と認められた宮部龍彦が部落民以外の何であると言うのだ」と言いながら、「権力による部落民認定には徹底的に対抗するのが正道なのである」などと言っている。支離滅裂、意味不明である。どういうことか釈明を求めます。

2、「同和地区 Wiki」の創設者としての責任を明確にすること

宮部龍彦は、回答書において「間違いなく同和地区 Wiki の創設者であり」と、認めています。しかし、「ある時から大衆運動化し、完全に宮部龍彦の管理を離れている」と言います。

「同和地区 Wiki」の創設者である、と認めたことは重要です。であるならば、創設者として、最も重い責任を問われるのは当然です。「同和地区 Wiki」が、ネット上で全国の被差別部落の存在を晒しものにし、茨城県古河市のような差別事件を生み出したし、今も日々その状態が続いている、その最大の責任は宮部龍彦にあります。

宮部龍彦に問う。創設者であると認めた以上、その責任を明らかにし、そこから派生する問題も含めて、謝罪することが当然だと思うが、どうか？

「大衆運動化」云々とは、何が言いたいのか？「大衆」のせいにして、自分は責任逃れをしたいのか？「大衆運動化」が、仮にそうだとしても、であれば尚更、創設者として「大衆運動化」に火をつけた宮部龍彦の責任はどこまでも免れません。

そもそも、どんな言い逃れをしようとも、「全国部落調査」をヤフーオークションにかけたのは一体誰なのか？「全国部落調査の復刻版を禁止されたから、ネット上の同和地区 Wiki をやった」と、腹いせまぎれの捨て台詞を吐いたのはどこの誰であろうか？今更、これらの犯行を「大衆」のせいにするほど、宮部龍彦は度し難い卑劣漢なのか？

3、部落探訪は、勝手に部落を晒すだけのものと認めること

同じく、部落探訪について、「部落についての正しい知識を広め、正しい寝た子の起こし方を実践した」「学術研究のため」と言っています。

「正しい知識」？「正しい寝た子の起こし方」？ではなぜ、わざわざ断りも無しに、家の門札や車のナンバー、墓石の名前まで、ことさら事細かに晒す必要があるのか？それと「正しい知識」のどこが関係あるのか？そもそも、当該の部落側から頼みもしないのに、なぜ各地の部落を晒すのか？頼みもしないばかりか、被写体とされた部落側から、大勢の部落大衆がやめろと言っているのに、なぜ聞く耳を持たないのか？そのようなものの一体どこに「正しい知識」があるのか？

ふざけるにもいい加減にしろ。

宮部龍彦の「学術研究」なるものは、アジア侵略戦争を「アジア解放のため」と言い、生体解剖を「医学の進歩のため」と言った、帝国主義侵略者の極悪の論理と、まったく同じです。宮部龍彦は「差別を無くそう、と掲げる興信所が一体どこにあるのか」と開き直っていますが、現に「侵略」を「解放」と言い、「殺人」を「医学」とうそぶく連中は存在します。宮部龍彦の言い分は、それとどこが違うのか？

4、古河市元係長による差別事件をひきおこした責任を認めること

さらに、回答書とは別に、最近になって宮部龍彦は、茨城県の古河市元係長の差別

事件についてネット上でデマを流し、また、古河市内の未組織の部落を含む「部落探訪」を執拗にくりかえしています。

古河市元係長の差別事件については、「日頃から愛する会が役所に対して糾弾しており、そこでK係長が愛する会を利用することを思いついた」と、K係長を擁護し、差別事件の原因を、地元の運動団体である部落解放愛する会に転嫁して、愛する会を非難しています。また、「同和地区 Wiki は流れの中でたまたま出てきたに過ぎず・・・むしろ運動団体や行政が反省すべき」とも述べて、「同和地区 Wiki」を擁護し、この問題の原因を「むしろ運動団体の糾弾が悪い」と、差別糾弾闘争に転嫁しています。

宮部龍彦は、ストーカー行為をくりかえし、ニセの「差別告発」の手紙まででっち上げた、卑劣極まるK係長を、糾弾すべきではなかったと言いたいのか？

そもそも、宮部龍彦は、回答書において、一見、形の上ではあたかも全国連の質問の全項目に答えているかのようにみせかけて、具体的核心問題からは、ことごとく逃げています。とくに、茨城県古河市のこの差別事件については、一言も触れることができていません。あげくに、このようなデマを、今になってネット上に流しているのです。

では、改めてこの点を再質問します。

2018年8月、茨城県古河市役所の当時現職のK係長が、ストーカー行為で逮捕される事件がおきました。K係長は、相手の女性に対する嫌がらせの一環として、差別を告発するという匿名の手紙を、地元の運動団体に出しました。その内容は、この女性は家族ぐるみで部落差別をしている、とでっち上げた卑劣極まるものです。そしてその中で、女性の家族は「〇〇地区は部落だから結婚するな、特に△△性はやめろ、エタ・ひにんは何されるか分からない、〇〇は怖いから一人では行かない」などと差別発言している、と書かれてありました。〇〇や△△には、相手の女性の住む町にある実際の部落の地名や苗字が書かれていました。

K係長は、この部落の地名や苗字を、どのようにして知ったのか。K係長は「同和地区 Wiki」の中の茨城県で知りました。サイトを見て正直、驚きました。全国の被差別部落が一覧として掲載されており、このようなデータが簡単に閲覧できてしまったからです」と、はっきり認めています。K係長は、「同和地区 Wiki」を見なければ、差別手紙を書くことはできなかったのです。

「同和地区 Wiki」は、このように実際の差別事件に使われています。宮部龍彦が言うような「差別に使われることはない」というのは、古河市の例のように、現実に「同和地区 Wiki」を使って発生した差別事件と、その事実関係によって、完膚なきまでに粉砕されています。宮部龍彦は「同和地区 Wiki」の二次被害を否定したいがために、「むしろ運動団体の糾弾が悪い」と詭弁を弄して、ひっくりかえしを図っているにすぎません。それほど、この差別事件の真相に打撃を受けたということでしょう。

宮部龍彦は「同和地区 Wiki」の創設者」として、古河市差別事件のもう一方の主犯でもあります。宮部龍彦が創設し拡散させた「同和地区 Wiki」が、K係長の卑劣な差別行為を教唆扇動したのです。古河市差別事件についてのネット上のデマと、茨城

県の「部落探訪」を直ちに削除すべきです。宮部龍彦は差別事件の責任と謝罪を求められて当然の立場なのです。「同和地区 Wiki はたまたま流れのなかででてきたにすぎない」など、事実にも反する見苦しい責任回避をやめ、自分の置かれた立場と正面から向き合ってはどうか？

5、関係人物一覧について責任を認めるか、評価を明らかにすること

関係人物一覧について「関知しないし、興味も無い」と言うが、白々しい。今更しらを切ってどうするのか？これも「学問の自由」とか称して、自分の犯行を認めたらどうだ。そうできないのは、裁判で争点になり、この点が示現舎側にとって不利なことだから、しらを切っているにすぎない。まったくもって卑劣の極みというほかない。関係人物一覧では、役員以外の青年、婦人も多数が晒されているのだ。

「関知しない」と言うなら、では関係人物一覧を、宮部龍彦じしんはどう評価するのか？宮部龍彦じしんは、関係人物一覧を非難し、削除を要求するとでもいうのか？言えるものなら言ってみろ。

6、「部落地名総鑑」について、すり替えずに正面から評価を明らかにすること

「部落地名総鑑」について、回答書においては、もっぱら「全国部落調査」の評価にすりかえている。「全国部落調査」のことなど聞いていない。幼稚なすりかえである。なぜすりかえるのか？

再度聞く。「部落地名総鑑」を、どう見るのか？「部落地名総鑑」の発行者の一人坪田某は「就職や結婚のさいの身元調査のため」と認めているが、その点を宮部龍彦は、どう思うのか？

回答書の内容では、「全国部落調査」の評価にすりかえ、その意義を擁護しているが、そこから見ると、「部落地名総鑑」も同様として扱い、擁護するようにとれるが、示現舎・宮部龍彦は、果たして「部落地名総鑑」を擁護するのか？

7、「部落の徹底的な暴露」の真の目的は金儲けであることを認めること

宮部龍彦は、なぜ、こんなことをするのか？

原体験としての「部落民宣言」をどう思ったのかという問いかけには、何も答えない。

だが、別のところで、「隠蔽と暴露の不毛な対立は、徹底的な暴露により無意味化され終止符が打たれる」と言って、自分の所業を傲然と開き直り、全面合理化しています。

宮部龍彦の本質は、ここにあげすけに自認されています。「徹底的な暴露」云々とはよくぞ言ったものです。精一杯もったいぶって見せますが、原点は金儲けです。どこからか聞きつけた「部落地名総鑑」にまつわるウラ話に飛びつき、自分もネットという新たな手口を活用して、あわよくばぼろ儲けを企んだ。否、うまくネットを活用すれば、「部落地名総鑑」の場合以上に、濡れ手に粟の商売になるかもしれない。ネ

ットでの販売予告といい、仮処分でそれが禁止されたとたんヤフーオークションにかけたことといい、明らかにこれが、宮部龍彦の動機であり、原点です。「部落地名総鑑」の屍肉をあさるハイエナ、それが宮部龍彦の正体です。「徹底的な暴露」云々は、まずは、この正体をごまかすための方便に過ぎません。宮部龍彦は、この指摘に反論があるなら、反論してみてもはどうだろうか？

さらに、ヒットラーが「ウソも百篇付けば真実になる」と言ったことは有名ですが、「徹底的な暴露」云々はその猿真似です。一度や二度の「部落地名総鑑」ではたいしたものではないが、百回も、千回も、否無限回も晒し者にすれば、誰もどうすることもできないとでも言いたいのでしょうか。実際に、ネット上で、それを実行しているわけですから、その罪は刑万死に値します。ぼろ儲けのあてが外れ、その開き直りの中で、宮部龍彦はヒットラーの末裔、ミニナチスの差別主義者に変貌したのです。宮部龍彦に反論があるなら、反論すればいい。

8、 明治4年の解放令で部落差別は無くなったというのか

同じく、「部落差別があるのかないのかという質問は愚問」と述べています。「5600ヶ所を超える数ある部落の1つ1つが別個のものであって、一般論で語ることは雑な議論」と、問題をすりかえています。しかし、それは問題から逃げているにすぎません。全国の被差別部落が、今なお、身分的な差別といういわれなき差別を受けている、この現実をどう思うか。社会の変化や、改良事業・同和事業によって、個々に変容はあるが、それでも身分的差別の本質は変わらない。

宮部龍彦は、このことの質問には答えない。答えられないのであろう。

身分的差別の典型としての結婚差別についても、聞いたことには何も答えていない。答えられないのであろう。

しかしその一方で、解放運動団体に活動していることが、結婚差別を生んでいるかのような言い方をしています。宮部龍彦は、解放運動があるから差別が起きるといふ、差別者特有の倒錯した考えなのか。

さらに、前回の質問に答えられないようなので、設問を変えよう。宮部龍彦は、明治維新・明治4年の解放令をどう評価するのか？それで部落差別は無くなった、と思うのか？いかに、詭弁家の宮部龍彦でも、これには答えられるはずだ。答えてもらおう。

以上、再質問する。

示現舎・宮部龍彦は、9月末日までに回答することを要求する。

2021年9月1日

部落解放同盟全国連合会

〒577-0023 東大阪市荒本1丁目8番14-116